岡谷市市制施行90周年

90年の時を超えて、
京都から岡谷へ300kmの旅

令和8年度考古特別企画展

海戸（かいど）の土器、里帰り。

岡谷初公開

京都大学総合博物館所蔵 海戸遺跡出土土器 特別展示

2026 11.28sat – 2027 1.25mon

市立 岡谷美術考古館

〒394－0027　岡谷市中央町一丁目9番8号
TEL/0266-22-5854
URL https://okaya-museum.jp

開館時間　10：00 ～ 18：00　休館日　毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日～1月4日 ※その他臨時休館の場合があります
最新情報はHPをご覧ください

入館料　一般580円（420円）　小・中学生290円（180円）　（ ）は10名以上の団体料金
岡谷市・諏訪市・茅野市・諏訪郡内在住または在学の小・中学生、岡谷市内在住または在学の高校生は無料

写真：海戸遺跡出土　京都大学総合博物館蔵

海戸（かいど）の土器、 里帰り。

90 年の時を超えて、 京都から岡谷へ 300km の旅

1938（昭和 13）年、岡谷市海戸遺跡で、小さな発掘調査が行われました。期間はわずか3日ばかりでしたが、 ほぼ完全な形に復元できる土器 21 点が発見されるという大きな成果を上げました。 その後、 出土した土器は京都大学総合博物館に収蔵され、 岡谷を離れることとなりました。

それから約 90 年の時を経て、 このたび岡谷へ里帰りします。

海戸遺跡は小尾口（こおぐち）区に位置する、 岡谷の縄文時代を象徴する遺跡です。 国重要文化財に指定された顔面把手付深鉢形土器（がんめんとってつきふかばちがたどき）が出土したのもこの場所です。 今回里帰りする土器は、 岡谷市史にも掲載されており、 縄文時代の人々の豊かな造形感覚を今に伝えるものです。

その発見の背景には、 このとき海戸遺跡を調査した考古学者・酒詰仲男（さかづめなかお）氏の存在がありました。 発掘当時の写真や著書、 経歴から、 海戸遺跡の調査に関わった人物の足跡もご紹介します。

約 90 年の時を経て岡谷に戻った土器と、 発掘調査に携わった人々の記録を通して、 海戸遺跡の歴史と岡谷の縄文文化に思いを巡らせていただければ幸いです。



海戸遺跡出土土器
（京都大学総合博物館蔵）



酒詰仲男氏
（同志社大学歴史資料館蔵）

主な展示資料
京都大学総合博物館所蔵　縄文土器実物 13 点・写真 7 点



海戸遺跡発掘状況
（同志社大学歴史資料館蔵）

海戸遺跡顔面把手付深鉢形土器
発掘 60 年記念ミニ展示
新発見の顔面把手公開！

岡谷は「顔面把手の里」

岡谷市では、顔面把手が 15 個みつかっています。 一つの市町村でこれだけの点数が見つかっている例はほかになく、 岡谷はまさに「顔面把手の里」といえるでしょう。 なかでも海戸遺跡からは、 今年の発掘調査で新たに発見されたものを含め、 5 点の顔面把手がみつかっています。

今回、 その新発見の顔面把手を当館で公開！

常設展示の資料とあわせて、海戸遺跡から出土した顔面把手 5 点すべてをご覧いただけます。いろんなカオを見比べながら、 お気に入りを探してみましょう。





JAPAN MUSEUM
登録博物館

学芸員によるギャラリートーク
①令和 8 年 12 月 6 日（日） 14 時～
②令和 9 年 1 月 17 日（日） 14 時～
2 回とも内容は同じです。
事前申込不要※入館料が必要です

市立 岡谷美術考古館